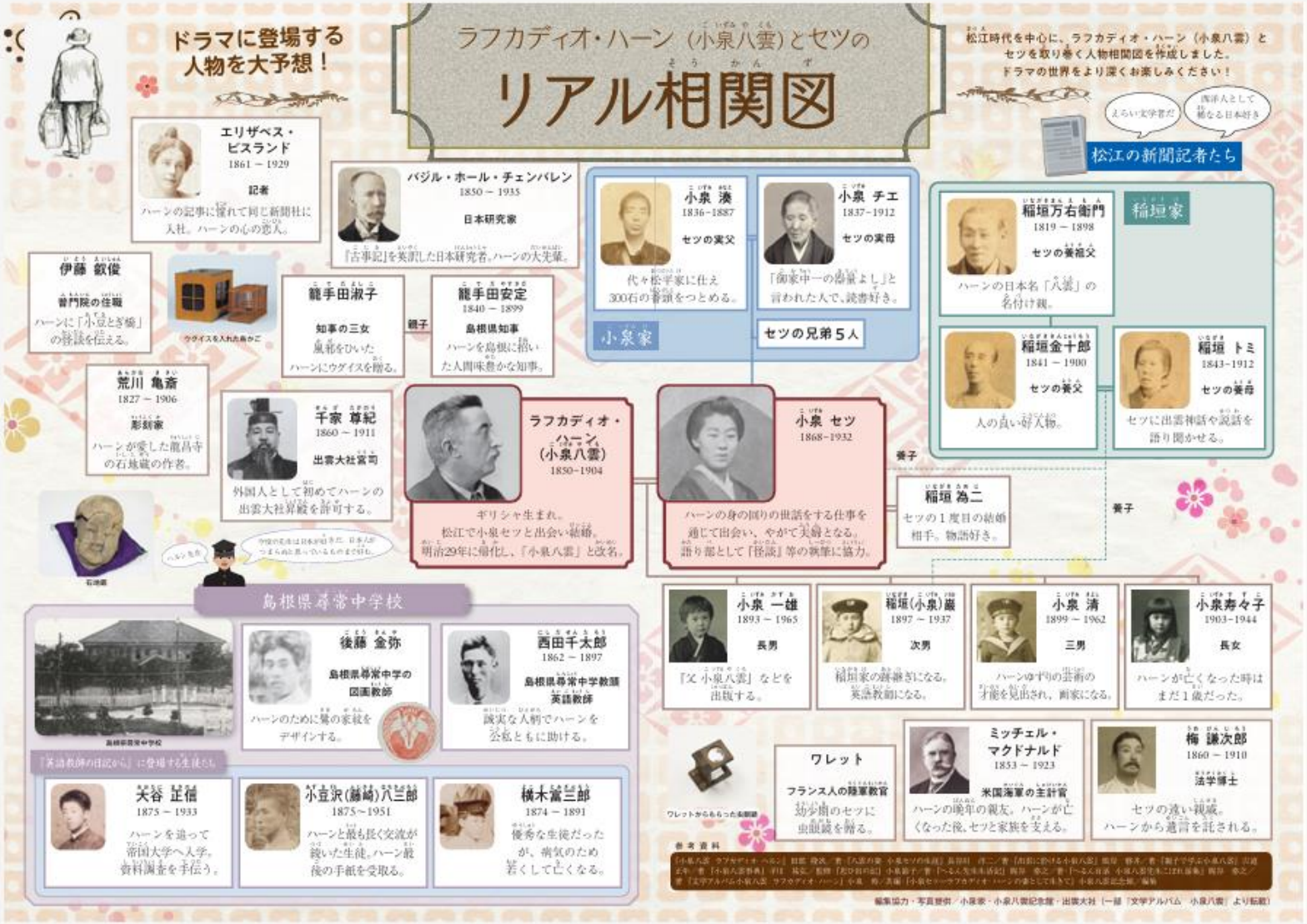
ドラマに登場する人物を大予想！
ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）とセツの
リアル相関図
松江時代を中心に、ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）とセツを取り巻く人物相関図を作成しました。
ドラマの世界をより深くお楽しみください！
エリザベス・ビスランド
1861 − 1929
記者
ハーンの記事に憧れて同じ新聞社に入社。ハーンの心の恋人。
バジル・ホール・チェンバレン
1850 − 1935
日本研究家
『古事記』を英訳した日本研究者。ハーンの大先輩。
小泉 湊
1836−1887
セツの実父
代々松平家に仕え300石の書頭をつとめる。
小泉家
小泉 チエ
1837−1912
セツの実母
「御家中一の器量よし」と言われた人で、読書好き。
セツの兄弟5人
松江の新聞記者たち
えらい文学者だ
西洋人として初なる日本好き
稲垣家
稲垣万右衛門
1819 − 1898
セツの養祖父
ハーンの日本名「八雲」の名付け親。
稲垣金十郎
1841 − 1900
セツの養父
人の良い好人物。
稲垣 トミ
1843−1912
セツの養母
セツに出雲神話や説話を語り聞かせる。
伊藤 叡俊
普門院の住職
ハーンに「小豆とぎ橋」の怪談を伝える。
ウグイスを入れた鳥かご
龍手田淑子
知事の三女
風邪をひいたハーンにウグイスを贈る。
親子
龍手田安定
1840 − 1899
島根県知事
ハーンを島根に招いた人間味豊かな知事。
荒川 亀斎
1827 − 1906
彫刻家
ハーンが愛した龍昌寺の石地蔵の作者。
千家 尊紀
1860 − 1911
出雲大社宮司
外国人として初めてハーンの出雲大社昇殿を許可する。
ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）
1850−1904
ギリシャ生まれ。松江で小泉セツと出会い結婚。明治29年に帰化し、『小泉八雲』と改名。
小泉 セツ
1868−1932
ハーンの身の回りの世話をする仕事を通じて出会い、やがて夫婦となる。語り部として『怪談』等の執筆に協力。
養子
稲垣 為二
セツの１度目の結婚相手。物語好き。
養子
石地蔵
ハルン先生
今度の先生は日本が好きだ。日本人がつまらぬと思っているものまで好き。
島根県尋常中学校
後藤 金弥
島根県尋常中学の図画教師
ハーンのために鷺の家紋をデザインする。
西田千太郎
1862 − 1897
島根県尋常中学教頭
英語教師
誠実な人柄でハーンを公私ともに助ける。
『英語教師の日記から』に登場する生徒たち
矢谷 正信
1875 − 1933
ハーンを追って帝国大学へ入学。資料調査を手伝う。
小豆沢（赫崎）八三郎
1875〜1951
ハーンと最も長く交流が続いた生徒。ハーン最後の手紙を受取る。
横木富三郎
1874 − 1891
優秀な生徒だったが、病気のため若くして亡くなる。
小泉 一雄
1893 − 1965
長男
『父 小泉八雲』などを出版する。
稲垣（小泉）巌
1897 − 1937
次男
稲垣家の跡継ぎになる。英語教師になる。
小泉 清
1899 − 1962
三男
ハーンゆずりの芸術の才能を見出され、画家になる。
小泉寿々子
1903−1944
長女
ハーンが亡くなった時はまだ１歳だった。
ワレットからもらった和服
ワレット
フランス人の陸軍教官
幼少期のセツに虫眼鏡を贈る。
ミッチェル・マクドナルド
1853 − 1923
米国海軍の主計官
ハーンの晩年の親友。ハーンが亡くなった後、セツと家族を支える。
梅 謙次郎
1860 − 1910
法学博士
セツの遠い親戚。ハーンから遺言を託される。
参考資料
編集協力・写真提供／小泉家・小泉八雲記念館・出雲大社 （一部『文学アルバム　小泉八雲』より転載）